

センター紹介 (社)湧水町シルバー人材センター

今回は、県中央北部に位置し、地域の丸池から湧き出る水に町名の由来を持つ湧水町(ゆうすいすいちょう)のシルバー人材センターをご紹介します。

霜で屋根瓦が雪のように白くなり、屋外にある車のフロントガラスもガチガチに氷っている朝、会員の方が「おはようございます」と声をかけ、事務所に安全就業の立て看板やのぼり旗を取りにきます。

ここ湧水町は鹿児島県中央北部に位置し、冬は寒く、夏は暑い盆地特有の気候のなか、湧水町シルバー人材センター会員130名は毎日元気にがんばっています。

当町のシルバー人材センターは設立11年が経過しましたが、その間市町村合併に伴い栗野町と吉松町シルバー人材センターも統合し、平成17年からは湧水町シルバー人材センターとして、新たにスタートしております。

また、昨年の夏までは市街地から少し離れた場所に事務所があり、会員や依頼者等にも少し不便を感じさせていましたが、平成21年8月から栗野ICのすぐ近くにある町の所有である旧ハローワークの跡を無償で借り受け、シルバー人材センター

の拠点として業務を行っているところであり、皆から便利になったと喜ばれています。

センターの受注は公共機関からの委託事業、農業関係の作業、一般家庭からの剪定や軽作業等様々ですが、中でも町からの依頼で庁舎や公民館、体育館等の清掃(床ワックス塗布等)は、「安くて仕上がりが良い」と好評をいただいています。この清掃については、清掃班12〜3名で組織し、毎年

専門の業者を招き講習会を実施するなど技術の進歩に取り組みんでいます。



▲清掃風景

本町は60歳以上が43%を占めていますが、会員はなかなか増えず、逆に高齢者世帯からの受注が毎年増えてきています。高齢者の方が今までは自分でしていたが出来なくなったので、身近なシルバー人材センター

に依頼したいとこのことで大変頼りにされています。

本町には名称どおり清らかな湧水が多くあります。特に日本名水百選にも選ばれた「丸池」は、県内外からこの名水を求めて多くの観光客が訪れています。ここでは、会員が毎年ボランティア作業を行い、町から感謝されています。



▲丸池でのボランティア

また、栗野岳中腹にある「霧島アートの森」は高原の美しい自然の中で、国内外の優れた芸術作品に親しみ、楽しんでもらう本格的な野外美術館で、10月末にこの周辺で行われる

「高原まつり」には、

シルバー人材センターが店を出し、会員の手づくりのおこわ、ぼたもち、甘



▲霧島アートの森

酒、もち等を販売し、大好評で2日間とも午前中で完売の状況でした。

その他に同好会活動

として、水田と畑を借りてもち米や生姜等を作り町のイベントや会員に安くで販売しています。年末には三門松やしめ縄を作って販売もしていますがこれらの活動をまとめて、センターの独自事業として取り組んでいきたいと協議しているところです。

今、行政刷新会議でシルバー人材センターも補助金削減等の評価が出るなどシルバー人材センターを取り巻く情勢は非常に厳しくなっています。当センターのように小規模なセンターはもとにも影響を受けま



▲高原祭りでの会員手づくり品(おこわ、ぼたもち、甘酒、もち等)の販売

センター紹介 （社）出水市シルバー人材センター

企画提案による事業

「緑豊かなりサイクル推進事業」「地域で見守り安心サポート事業」

出水市は、鹿児島県の最北に位置する町で、冬場に1万羽以上の鶴が飛来する日本有数の「鶴の町」です。また、江戸時代の街並みを残す武家屋敷群が有名で、NHK大河ドラマ「篤姫」の撮影現場にも使われました。このような観光産業は当市においての目玉産業ではありますが、基幹産業は農業です。

春には、お茶・ソラ豆・ジャガイモ、秋にはイチゴ・サツマイモ・里芋、冬はみかん・甘夏と、それぞれの四季に合わせた発注があり、農繁期には各農家からの発注が相次ぎ、発注を断ざるを得ない時もあり、シルバー会員の活躍が必要不可欠なものになっています。

旧出水市シルバー人材センターの発足から、今年で設立20周年という節目の年を迎えておりますが、昨今の経済状況の悪化などにより、中々契約実績も会員数も伸び悩んでいる状態です。

そういった中で、受注を伸ばしているのが剪定作業です。

毎年、盆前・年末の時期には応じきれない状況で、うれしい悲鳴を上げています。剪定作業が伸びている原因は、一日で確実に作業を済ませることと、残滓をきれいに片付けることにあります。作業が増加するに従い、残滓量も多くなっていますのでその処理も大変になっています。

平成21年度より企画提案方式事業として「緑豊かなりサイクル推進事業」を実施するにあたり、チップ処理場の隣地を借り受け、敷地を倍の面積にし、処理作業を行うためのチップ・シュレッダーの追加導入もを行い、処理作業を行う会員の増員も図りました。



また、チップ処理でできた腐葉土を販売することで、緑のリサイクルも進んでいます。
腐葉土購

入者にはリピーターが多く、農家や個人だけでなく、学校等または市外からの方々にも好評を得ています。この腐葉土を利用して花の苗作りにはチャレンジし、育った花の苗を市内幼稚園などに無料提供し、センター会員と児童と一緒に植えるという活動です。この活動も2

年目に入りましたが、苗作りに協力してくれる会員数が増えないことや花の苗が中々思うように育ってくれないことなど、抱えている問題はまだまだたくさんありますが、児童の喜ぶ顔を思い浮かべながらがんばって取り組んでいくと



また、今年新たな企画提案方式事業として、「地域で見守り安心サポート事業」も同時に展開しています。当センター家事援助班が中心となって、乳幼児・児童の一時預りを行ったり、子育てに悩む若いお母さんたちへの育児相談などを行ったりしています。7月には念願であった「託児ルーム ひまわり」も開設することができましたが、まだまだ利用者数は決して多くはありません。本格的な事業展開はまだ始まったばかりです。



事務局職員並びに各会員が一致団結して、この2つの企画提案方式事業を成功させ、ますます「なくてはならないシルバー人材センターづくり」を目指していきたいと思っております。